

テーマ：超強塩基を用いるアリルアルコールをホモエノラートの前駆体として利用
する反応の開発

ホモエノラートは β 位が修飾されたカルボニル化合物を合成するための重要な化合物である。しかしながら、これまで金属ホモエノラートを簡便に調製するための手法の開発が遅れていた。そこで、ホモエノラートの前駆体として新たにアリルアルコールに注目し、超強塩基 KCH_2TMS を用いることで、ホモエノラートおよびエノラートの2つの反応性を有するジアニオンに変換できることを見出した。

このジアニオンを用いて求電子剤と反応させると、求電子剤は選択的に β 位に導入されることが分かった。またより反応性の高い求電子剤を用いると β 位のみならず、 α 位でも求電子剤と反応する。現在は α 位および β 位で異なる求電子剤を導入するための反応条件の検討を行なっている。